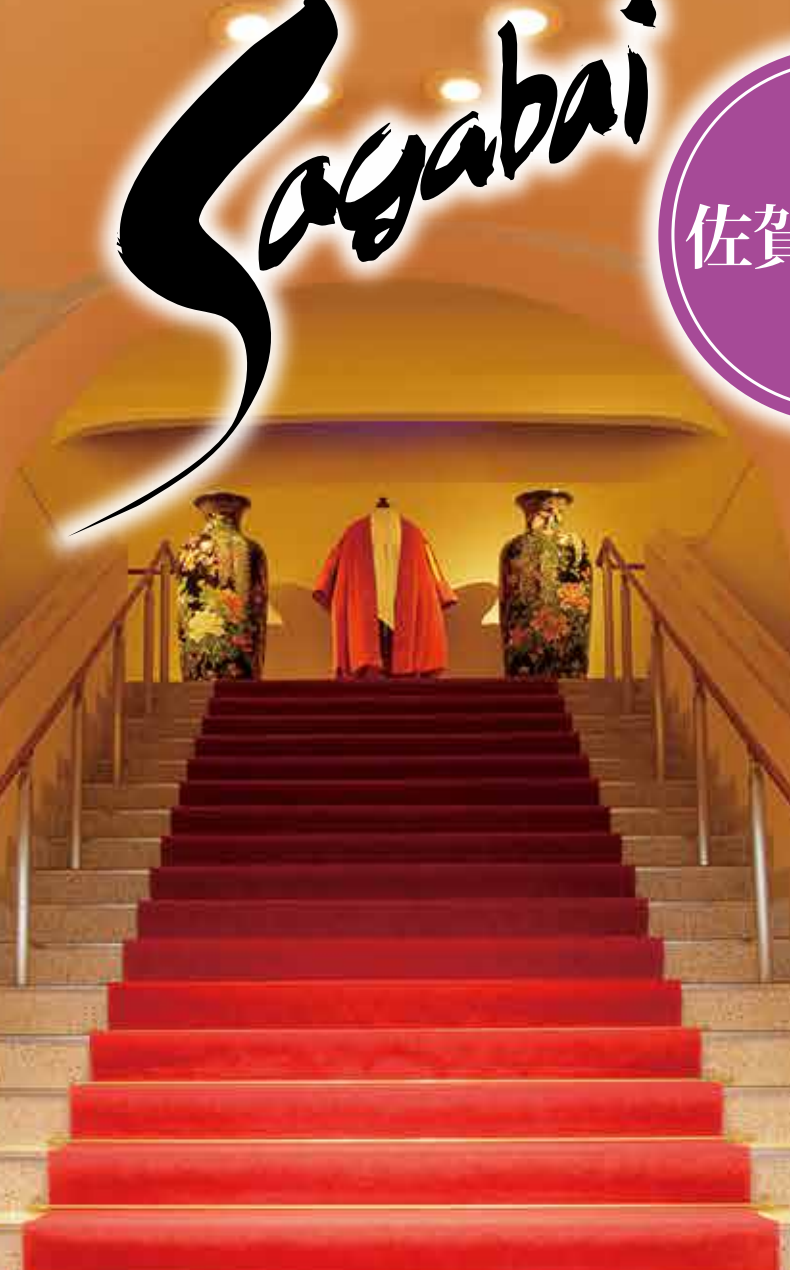




Sagabai

佐賀の賢人

BOOK



あの日、あの時…、 佐賀には賢人たちがいた。

あなたは知っていますか？

佐賀には、かつて近代日本の礎を築いた賢人たちがいたことを。

あなたは知っていますか？

不老不死の薬を求めて、佐賀で数々の伝説を残した賢人がいたことを。

ある者は己の正義を貫くため兵を挙げ、ある者は弱い者のため国際法の舞台で戦い、

またある者は、その商才をもって日本に煎茶を広めていきました。

佐賀の至るところで見られる足跡のひとつひとつが、確かに彼らが佐賀にいたことを、雄弁に語りかけてきます。

彼らに会うことは出来ないけれども、彼らから学ぶことは出来ます。

さあ、出かけましょう。佐賀の賢人たちの足跡を辿る旅へ。

目次



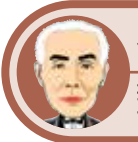
なべしま なおまさ
鍋島直正
ずば抜けた
先進性を持つ名君。

P3



おおくま しげ のぶ
大隈重信
明治・大正
きっての傑物。

P4



さ の つね たみ
佐野常民
揺るぎなき
博愛精神。

P5



しま よし たけ
島 義勇
北の大地を
切り拓いた開拓者。

P6



え どう しん べい
江藤新平
「民権」を唱えた
初代司法卿。

P7



そえ じま たね おみ
副島種臣
世界が認めた
正義の外務卿。

P8



おお き たか とう
大木喬任
教育制度の基礎を
作り上げた酒豪。

P9



えだ よし しん よう
枝吉神陽
日本の未来を説く
カリスマ学者。

P10



さが ら ち あん
相良知安
ドイツ医学
導入の功績者。

P11



じょ ふく
徐 福
不老不死を求めた
浪漫の旅人。

P12



ばい さ おう
売茶翁
煎茶を浸透させた
文化人。

P13



なり ども ひょう ご しげ やす
成富兵庫茂安
今も遺構が残る
治水の神

P14



なべしま なおまさ
鍋島直正
ずば抜けた先進性を持つ名君。

詳しくはコチラ！



日本をリードしたリーダーシップ

佐賀藩9代藩主・鍋島齊直の嫡子として江戸の佐賀藩邸に生まれる。17歳で家督を継ぎ10代藩主になると様々な改革を断行し、佐賀藩を幕末の雄藩にのし上げた。家督相続当初、藩の財政は逼迫していたため、直正はまず粗衣粗食令を出し、自らも率先。藩の役人の大幅なりストラ、借金の整理、磁器・茶・石炭などの産業育成を通して財政改革を行った。

教育にも力を入れ、藩校「弘道館」の拡充や洋学を学ぶ蘭学寮を設置。子息の成績によって父親の禄を決定するといった「文武課業法」を制定するなど、徹底して勉学を推奨した。また、医学寮を設置し、当時世襲制が当たり前だった医者免許制度を日本で初めて取り入れ、さらに当時不治の病であった天然痘の根絶のため、種痘を自らの長男で試すことでその信頼性を世に示した。

そして長崎警備の名目の元、国防のための兵器の必要性を感じ、鉄製大砲鑄造のための反射炉を築いたり、理化学研究所「精煉方」や海軍伝習所を設置、国産初の蒸気機関の開発など、幕末佐賀藩の技術力は日本の最先端を走っていた。その結果として佐賀藩の軍勢力と多くの優秀な人材は、明治維新时期に大きな役割を果たし、日本の近代化を推進する原動力となった。

ショック!意気揚々の御国入りのはずが…

17歳で家督を継いだ直正が、意気揚々と江戸から佐賀へ向かう途中、品川の宿で何と足止めを食らった。実は江戸の商人たちが未払い金の返済を求めて立ちふさがっていたのだ。直正は「これほどまでに藩の財政が逼迫しているのか」とショックを受け、それがトラウマとなって俵約令など藩の様々な財政改革に打ち込んでいく。これらの借金も、その8割を放棄させ、残りを50年賦にするという、ほとんど踏み倒しに近い力技。しかしこの経験が佐賀藩が雄藩への道を進む一つのきっかけとなっていく。



▲「鍋島直正公御実歴巻百四」に記された品川宿での足止めの様子
西村慶介氏蔵(佐賀県立博物館保管)

敵か?味方か?のらりとかわす大胆さ

尊王が佐幕かで揺れる中、当時強大な軍勢力を持つ佐賀藩の動向は各藩の気になる所だった。味方にしようとした幕府の使いに、直正は「痔でござってな」と断り真意を見せない。最後は倒幕軍につき、明治維新の大きな原動力の一つとなったが、直正は程なくして亡くなってしまふ。「戦国の世に生まれていれば、もう少し面白い世を送っていたかもしれぬ」。死ぬ間際、そう漏らしたといわれる。



鍋島直正二行書「先憂後楽」▶
(佐賀県立博物館蔵)
国を思うものは、常に民に先立って国のことを憂い、民が楽した後には自分が楽しむという意味で、直正の座右の銘。正に天下国家を憂い続けた直正の人柄を表す言葉

【概略年表】

概略年表		数え齡
1814	文化11年	1 12月7日誕生。幼名貞丸
1830	天保元年	17 家督を継ぎ、佐賀藩第10代藩主となる
1835	天保6年	22 佐賀城二の丸火災、本丸再建を表明
1840	天保11年	27 藩校弘道館を拡張／長崎警備を強化
1844	弘化元年	31 火術方を設け砲術研究 オランダ軍艦パレンバン号に乗り込み視察
1849	嘉永2年	36 世子の淳一郎(直大)に種痘をためす
1850	嘉永3年	37 築地反射炉建設に着工
1851	嘉永4年	38 医学寮と蘭学寮を併設／神ノ島・四郎島間の埋立着工
1852	嘉永5年	39 精煉方を設ける
1858	安政5年	45 三重津御船手稽古所を設ける／医学寮を移転、好生館とする
1861	文久元年	48 隠居して閑居を号する
1865	慶応元年	52 長崎に英学塾「致遠館」を設ける
1869	明治2年	56 上院議長拝命／大納言となる／北海道開拓史長官となる
1871	明治4年	58 1月18日死去

勉強するなら佐賀! 中央からの地方留学

明治政府の中心的人物であった岩倉具視は、多くの人材を輩出した佐賀藩の教育に強い関心を示し、自分の二人の息子を佐賀へ留学させた。当時、中央から地方への留学は珍しく、いかに優秀な教育の場として注目されていたかが分かる。二人の姿は、長崎にある佐賀の英語学校「致遠館」の集合写真にも見ることが出来る。



▶長崎「致遠館」の写真に残る岩倉具視の息子、岩倉具経(左)と具定(右)

鍋島直正足跡探訪コース【約2時間半】(移動約55分+観光散策約95分)

モデルコース 数多くの直正の偉業を今に伝える資料館や史跡を巡り、その全容を知る



徒歩で約15分

①佐賀城本丸歴史館

十代藩主鍋島直正が再建した本丸御殿の一部を復元した歴史博物館。直正の功績や幕末維新期の佐賀藩の歴史を知ることができる。ガイドによる説明も。

所 佐賀市城内2-18-1
開 9:30～18:00
休 12/29～1/1、臨時休館日
料 見学無料(募金をお願いしています。)
問 ☎0952-41-7550



徒歩で約5分

②佐嘉神社

佐賀藩を大きく飛躍させた直正の威徳を賛え創設された神社。その象徴とも言える復元カノン砲に注目。

所 佐賀市松原2-10-43
問 ☎0952-24-9195



③徴古館

佐賀藩主・侯爵鍋島家伝来品の歴史博物館。佐賀県内初の博物館として、12代当主直映公により昭和2年に創設された。年に数回の展覧会やイベント等を開催している。

所 佐賀市松原2-5-22
開 9:30～16:00(最終入館15:40)
休 徴古館ホームページをご覧ください
料 300円(中学生以下無料)
問 ☎0952-23-4200



徒歩で約25分

④築地反射炉跡

直正が長崎警備のための鉄製大砲を鑄造するために建設した国内初の反射炉跡。日本の近代化産業の原点とも言える場所。

所 佐賀市長瀬町9-15
(旧新小学校校庭内)



車で約10分

⑤神野公園の「隔林亭」

直正の別邸「神野御茶屋」の茶室を復元したもの。ひとときの閑、殷々気分が味わえる。

所 佐賀市神園4丁目
開 9:00～17:00(昼休みあり)
休 月曜(休日の場合は翌平日)、年末年始
料 見学無料、呈茶一席300円(呈茶時間はお問い合わせください)
問 佐賀市緑化推進課 ☎0952-40-7162

はみだし情報 直正が置いた理化学研究所精煉方「当初思うように成果が出ず、家臣には廃止を進言する者もいたが、直正はあれは余の道楽だ」と言って存続させた

はみだし情報 明治の偉人の多くは写真で姿を見ることができないが大隈は演説を吹き込んだレコードが残されており、今でもその肉声を聞くことが出来る。

Okuma Shigenobu



おおくま しげのぶ

詳しくはコチラ!





▲洋装姿の大隈(大隈重信記念館蔵)

大隈重信

明治・大正きっての傑物。

持って生まれた政治家資質

佐賀藩士の大隈信保・三井子夫妻の長男として生まれる。7歳で藩校「弘道館」に入学、優秀な成績を修めるも、漢学を中心とした閉鎖的な教育に反発、南北寮の大喧嘩の首謀者と目され、18歳で館を離れた。その後は蘭学寮へ入学し洋学を学ぶ傍ら、義祭同盟で尊王思想を学び、副島種臣と共に脱藩して京に向かうなど、志士活動を行う。

明治新政府では外国事務局判事に任じられると、キリスト教徒の処分問題でイギリス公使パークスと激しい舌戦を繰り広げた。その後は大蔵卿、外務大臣、農商務大臣などを歴任し、グレゴリオ暦の導入、鉄道の敷設、貨幣制度の整備、東京専門学校(後の早稲田大学)の開校など、今日に残る様々な功績を残している。

そして1898年、板垣退助と共に隈板内閣を組閣、総理大臣になる。これは日本初の政党内閣と言われている。この内閣は半年程度で解散になるが、1914年には再び総理大臣に就任、2年後に79歳で解散となるが、これは総理大臣としては今日にいたるまで最高齢である。

これぞ母の愛デア 勉強部屋の工夫とは？

12歳の時に父を亡くした大隈は、母親の愛を一身に受けて育つ。そんな大隈のために、母三井子が生家の二階に増築した勉強部屋には数々のアイデアが。部屋を明るくするため、大きな窓を設けつつも、気が散らないように、外が見えない高さに設計。また勉強机の前には大きな梁のどっぴりが。実はこれ、勉強中に居眠りするとここに頭がぶつかり、目が覚める、ちょっと乱暴な仕掛け。そんな母の期待に応え、大隈は藩校、弘道館で優秀な成績を修めることになる。



▲当時のまま残る大隈の勉強部屋。

南北分かれての騒動 退学になったその理由

大隈が学んだ藩校弘道館では、儒教教育が中心で、一方で「葉隠」も読み継がれていた。大隈はそんな旧態依然とした教育に必ずしも納得していなかった。そんな中で起こった南寮と北寮の騒動で、首謀者と誤解され、大隈は弘道館を退学処分になってしまった。しばらくして復学を許されるも、大隈はその頃開設された蘭学寮に進み、退学のおかげで望んでいた洋学を学べるようになった。人生何が幸いするか分からない。



▲弘道館時代に使用していた教科書(大隈重信記念館蔵)

その右足は義足だった 失われた脚の行方

1889年、当時外務大臣の大隈は過激運動家に爆弾を投げつけられ、右足を切断する大怪我を負った。以降、義足で過ごすこととなり、その義足は早稲田大学や大隈重信記念館などに残されているが、実は義足だけでなく、この事故で失われた本物の右足も残されているのだ。最初はアルコール漬けにして大隈邸に置かれていたが、維持費がかかるため日本赤十字看護大学に譲られ、さらに近年、里帰りを果たし、現在は大隈家の菩提寺にあるとのこと。

スイーツ大好き大隈侯 東京出張した故郷の味

佐賀を通る長崎街道はシュガーロードとも呼ばれ、様々な菓子文化が華開いた所。そんな中でも大隈の好物だったのが佐賀菓菓、丸ぼうろ。明治29年の帰郷の際に惚れ込んだのだとか。東京でこの故郷の味を懐かしんでいると聞いた菓子屋「鶴屋」の主人は職人を連れて上京、東京の大隈邸内に窯を築いて、丸ぼうろをふるまった。佐賀から東京、何とも贅沢なデリバリーサービスだ。

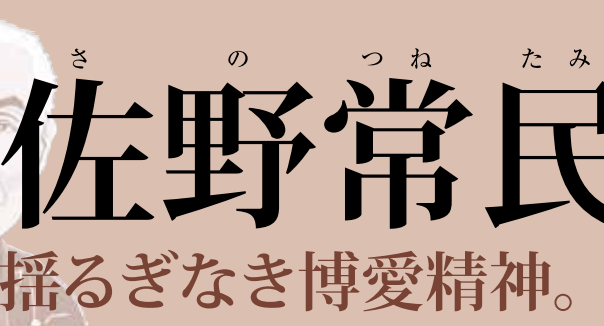
Sano Tsunetami



さ の つ ね た み

詳しくはコチラ!





佐野常民

揺るぎなき博愛精神。

日本赤十字社の創設者

早津江村(現佐賀市川副町早津江地区)に佐賀藩士・下村三郎左衛門の五男として生まれる。9歳の時に佐賀城下水ヶ江の佐賀藩医、佐野常徴の養子となり、医者を経ぐための勉強を始める。13歳の時に藩校「弘道館」に入学。以降、江戸の古賀侗庵、佐賀の松尾塾、京都の広瀬元恭の時習堂、大阪の緒方洪庵の適塾、紀伊で華岡青洲の春林軒塾、江戸で伊東玄朴の象先堂塾に入門し、幾多の留学体験で幅広い学識を得た。

31歳の時に佐賀藩が設置した理化学研究所、精煉方の主任となり、日本初の蒸気機関のひな形等を完成。長崎では幕府の海軍伝習に参加し、後に佐賀の三重津海軍伝習所の監督となり、国産初の実用蒸気船、凌風丸を完成させる。

1867年、パリ万博に参加する佐賀藩の代表として渡欧。そこで赤十字社の存在を知り、深い感銘を受ける。10年後に西南戦争が勃発すると、日本赤十字社の前身となる「博愛社」を設立、敵味方に関係なく負傷者の救護活動を行った。その設立には幾多の反対があったが、佐野はその信念を貫き、有栖川宮熾仁親王への直訴を行い、実現に至った。

真相は永遠の闇の中 佐野常民生涯最大の謎

江戸の伊東玄朴の蘭学塾「象先堂」で勉学に励んでいた時のこと。塾にはゾーフ・ハルマというオランダ語の辞書があり、塾生はこれを奪い合うように勉強していた。ある日佐野はこれを持ち出し、何と30両(約360〜390万円)で買入れしてしまったのだ。当然塾は破門され、佐賀に戻ることになるが、佐野は後年、その真相について決して話すことはなかった。誰にも話せぬ余程の訳があったのだろう。



▲「三重津海軍所之図」(鍋島報効会蔵)
佐野が監督を務めた海軍教練や修船の施設。日本初の実用蒸気船凌風丸もここで完成した

人材は藩を救う 佐野の名スカウト術

「象先堂」を破門された佐野は江戸から佐賀に戻る際、京都で「からくり儀右衛門」として有名な田中久重親子ら4人の技術者をスカウトし佐賀に連れて帰る。当時の佐賀藩は二重鎖国をとっており、他藩の人間を雇うなんてもつてのほか。佐野は何とかこれを説き伏せ、結果佐賀藩では蒸気機関の開発など、飛躍的な科学進歩を遂げることになる。籍に関係なく、優れた人材が情勢を助けるのは今も昔も変わらない。



▲日本初の蒸気車のひな形(鍋島報効会蔵)

泣きの常民 5つの涙の訳

佐野がしばしば人前で涙を流したことは有名だが、中でも有名な「5つの涙」というのがある。それは博愛社設立の願書許可の際、精煉方の二代目田中儀右衛門の惨死の際、パリでの野中元右衛門の客死の際、帆船購入に当たり賄賂の中傷で解任の際、そして鍋島直正の死の際。それ以外にも直正からの恩義にはよく涙していたとの話も。そんな男気あふれる涙が美しい。



▲博愛社設立許可の図(日本赤十字社蔵／画像提供:佐野常民記念館)
西南戦争中の熊本で、有栖川総督への直訴がなかった瞬間

大隈重信足跡探訪コース【約3時間】(移動約100分+観光散策約80分)

モデルコース 母と共に幼き大隈を育てた佐賀の生活を追体験する



徒歩で約15分



徒歩で約15分

①大隈重信記念館・旧宅(生家)

大隈の生涯を知る記念館と、武家屋敷の面影を残す生家。維新の傑物の誕生地を踏み締め大隈巡りスタート。

⑤ 佐賀市水ヶ江2-11-11
開 9:00〜17:00
但し、入館は16:30まで
⑥ 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
年末年始(12/29〜1/3)
料 大人330円 小学生以下160円
⑦ ☎0952-23-2891

②旧古賀家住宅

旧古賀銀行の創立者、古賀善平の居宅。大隈も帰佐の際には、度々宿泊した。大隈気分でごろんとくつろぐのも一興。

⑧ 佐賀市柳町3-15
開 9:00〜17:00(最終入館16:30)
⑨ 月曜(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日
(土日を除く)、年末年始、資料等整理期間、
佐賀城下ひなまつり準備・撤去期間
⑩ 見学無料(企画展を除く)
⑪ 佐賀市歴史民俗館 ☎0952-22-6849

通った藩校 ③龍造寺八幡宮

徒歩で約10分



徒歩で約20分

⑤龍泰寺

大隈家の菩提寺。大隈の墓参りや威徳を偲ぶことができる。

⑫ 佐賀市赤松町2-4
⑬ ☎0952-23-7247



徒歩で約10分

⑥鶴屋菓子舗

大隈の好物、丸ぼうろの老舗。古文書から製法を割り出した幻の菓子「肥前ヶシアド」など、お土産にも最適。

⑭ 佐賀市西条町1
⑮ 9:00〜19:00
⑯ 休日
⑰ ☎0952-22-2314



徒歩で約30分

⑦高伝寺

鍋島、龍造寺家の菩提寺。境内には幼い大隈が登って身体を鍛えた「八太郎槓」の木がある。

⑱ 佐賀市本庄町大字本庄1112-1
⑲ 9:00〜20:00
⑳ 大人300円 中学生200円
㉑ 釈迦堂御開扉期間は400円
㉒ ☎0952-23-6486

佐野常民足跡探訪コース【約2時間】(移動約60分+観光散策約60分)

モデルコース 佐賀藩の発展に数々の功績を残した佐野の軌跡を巡り行く



徒歩で約10分

①佐野常民生誕地

佐野が9歳で佐野家の養子に行くまで暮らした地。大正15年に記念碑が建てられ、その功績が顕彰されている。

⑳ 佐賀市川副町大字早津江津268



徒歩で約1分

②佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館

2021年9月25日にオープン。(旧佐野常民記念館)佐野常民の80年の生涯を約13分の迫力ある映像で紹介。

㉓ 佐賀市川副町大字早津江津446-1
⑳ 9:00〜17:00
㉔ 月曜(休日の場合は翌平日)、年末年始
㉕ 大人500円 小中高生200円
㉖ ☎0952-34-9455



徒歩で約1分

③三重津海軍所跡(佐野記念公園)

世界遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」幕末佐賀藩の洋式海軍の拠点として、訓練や洋式船の建造・修理を行った場所。2015年7月に世界遺産に登録された。

㉗ 佐賀市川副町・諸富町
㉘ 佐賀市歴史・文化課
㉙ ☎0952-40-7105



車で約30分

④佐野常民旧宅地界隈

佐野が養子に出された藩医、佐野藩仙の屋敷跡近辺。徒歩約5分の場所に大隈重信の生家があるなど、当時の雰囲気残り、町歩きにいい。

㉚ 佐賀市水ヶ江2-7付近



車で約10分

⑥精煉方跡

佐野が責任者を務めた、幕末佐賀藩の理化学研究所。数多くの実験、研究が行われ、新しい技術の開発に成功していった。

㉛ 佐賀市多布施3-4-5

はみだし情報 佐野が監督を務めた三重津海軍所跡は明治日本の産業革命遺産の一つとして平成27年7年に世界遺産に登録された。

はみだし情報
秋田県権令の島は八郎潟開拓予算資金を政府の井上馨に要望したが完全無視され、その後つかみあわんばかりの大論争をしたが結局予算がつかず免官されてしまった。
八郎潟干拓は昭和23年なので、島の先見の明からは75年もの月日が流れている。

しまよし たけ

Shima Yoshitake

島義勇

北の大地を切り拓いた開拓者。

詳しくはコチラ!

▲東帯姿の島義勇(北海道大学付属図書館蔵)

熱き心で、極寒の大地を切り拓く

佐賀藩士島市郎右衛門の長男として佐賀城下精(しらげ)小路に生まれる。9歳の頃より藩校「弘道館」に学び、23歳で卒業。家督を継いだ後は諸国を遊学し、帰国して藩主鍋島直正の外小姓、弘道館目付となる。枝吉神陽の「義祭同盟」にも創設期から参加し、そこで江藤新平や大木喬任とも出会っている。

1856年、直正の信頼が厚かった島はその命で、当時の未開拓地であった蝦夷地(現在の北海道)の探検に随行。厳しい寒さの中、約2年に渡って北の大地を歩き続け、その詳しい調査結果を記した「入北記」を残している。

明治新政府では直正が蝦夷開拓督務となると、島はその経歴を買われ開拓使判官に就任。北海道開拓の町づくりを任される。札幌を中心とした町づくりを進めるも、予算による衝突で志半ばで解任。後に秋田県権令となるも、ここでも中央政府とぶつかりまたも解任。後の佐賀の役では憂国党の党首となって戦うも敗れ、53年の理想に燃えた生涯を閉じた。

極寒の大地で島が目指した理想郷

島が都市設計の基礎を行った札幌の街。地図で見ると、道が碁盤の目のように並び、地名にも一条、二条と言う名前が並んでいる。実はこれ、島が京都の町並みを参考に設計したため。札幌に日本一の町作りを目指した島だったが、厳冬の状況下、その工事は困難を極め、1年分の予算を3ヶ月で使い果たしてしまい、想い半ばで解任になってしまう。しかし、その先駆者たる島を札幌開拓の父として掲載し紹介している教科書もあるのだ。



▲「入北記」(北海道大学付属図書館蔵)
島が2年間に渡る北海道探索の記録をまとめたもの。植物や生恵、アイヌの人々の生活の様子など、図入りで詳しく描かれている



▲1889年(明治22年)の札幌地図(札幌市中央図書館蔵)
碁盤の目のように整然と整備された町並みの中央には、当時としては類を見ない幅50mの大通りが見て取れる

島を駆り立てた船中での挑発

士族による不穏な動きがある佐賀へ向かうため、島は船へと乗り込んだ。そこには、佐賀県権令として赴任する岩村高俊の姿もあった。船中、岩村は取巻き相手に佐賀人を高声にののしり、それを聞いた島は岩村と掴み合いの喧嘩になる。翌日、下関で降りた岩村が兵隊を連れて佐賀に乗り込むと聞いた島は怒り、討伐されようとしている佐賀のために起つ決心を固めたという。また、島は義祭同盟の志士たちの中でも特に過激な攘夷論者として知られていた。佐賀の役で江藤新平と一緒に戦ったのは思想的に近い同志というよりも、各々の事情で政府軍を共に迎え討ったというのが真らしい。



▲「佐賀県逆動新聞」1877年刊(佐賀県立博物館蔵)
佐賀の役を描いた錦絵。島や江藤新平の姿も描かれている。

えとう しんぺい

Eto Shinpei

江藤新平

「民権」を唱えた初代司法卿。

詳しくはコチラ!

▲カメラを脱み付けけるような江藤の肖像写真(佐賀城本丸歴史館蔵)

民のために走り抜けた法律家人生

佐賀城下八戸村に佐賀藩士の江藤胤光の長男として生まれる。父胤光は佐賀藩士とはいえ、手明鍵(てあきやり)という下級武士で、日々の生活にも困窮するような家だった。

12歳の時に藩校弘道館に入学。1850年に枝吉神陽により「義祭同盟」が結成されると参加、尊王思想などを学び、仲間と議論に明け暮れる。23歳で意見書「図海策」を書き、開国論を唱える。29歳の時に藩の方針に業を煮やし脱藩、京都に入り当時の世相をまとも、謹慎を命じられる。

大政奉還によって幕府が消滅すると、郡目付として復帰。新政府が誕生すると京都に派遣される。江戸城が無血開城されると城内の文書類を接收し、当時の法令を読み解く。

そして明治5年、明治新政府において初代司法卿に就任。四民平等を説き、当時「民権」という概念がなかった時代に、民の権利を守り、誰でも公平な裁判ができるようにした。また学制制度や警察制度整備、娼妓解放令などを進める。しかしその性急な改革が政府内の反感を買ったのも事実で、最後は佐賀の役に敗れ、鹿児島から高知への逃亡の末捕らえられ、まともな裁判もなしに処刑されてしまう。時代を達見した天才の早すぎる最期だった。

【概略年表】

1834	天保5年	1	2月9日、江藤胤光の長男として佐賀城下八戸村に誕生
1845	弘化2年	12	父に従って晴気村(小城町)に移る／弘道館に入学
1849	嘉永2年	16	弘道館内書生寮に寄宿／父が佐賀代官出仕となる
1856	安政3年	23	「図海策」を書き、開国論をととなる
1862	文久2年	29	脱藩し京都に入り「京都見聞」をまとめる／謹慎を命じられる
1867	慶応3年	34	12月、開門を許され郡目付となる／京都で活躍を始める
1868	明治元年	35	西郷隆盛と共に江戸城に入る／大木喬任と共に東京遷都を建白
1869	明治2年	36	佐嘉藩権大参事となり副島種臣と藩政改革
1870	明治3年	37	「国政改革案」など建議
1871	明治4年	38	文部大輔、左院副議長となる／廃藩置県を施行
1872	明治5年	39	司法卿となり法制公布施行に当たる
1873	明治6年	40	参議となる。征韓論に破れて、10月参議を辞任
1874	明治7年	41	佐賀の役、薩摩、土佐へ逃れ、土佐にて捕縛。4月13日没

【1889年(明治22年)賊名を解かれ、1916年(大正5年)正四位を贈られた】

ちょっと損してる？無愛想写真の真実

おなじみの仏頂面の江藤の肖像写真。実は脱藩し、京都に行った時に撮られた、生涯一度の肖像写真。その表情にも訳があり、京都で世話になっていた桂小五郎や伊藤博文らに言われるままに着物を着せられ、言われるままに写真を撮っている自分に腹が立っていたからだとか。それ以来写真嫌いになった江藤は、ほとんど写真に写らなくなった。



▲司法省高官とともに。前列右から3人目が江藤(佐賀城本丸歴史館蔵)

法の下には平等であれ尾去沢事件の追求

1871年、大蔵省の井上馨は不当な証文で尾去沢鉦山を差し押さえ、それを私物化しようとした。銅山の持ち主だった鍵屋茂兵衛はこれを司法省に訴え、司法卿の江藤がこれを追及、井上を逮捕できないまでも辞職に追い込んだ。同じ政治家相手でも追及の手を緩めない正義の人だったが、そのせいで薩長閥の恨みを買うことになってしまった。



▲江藤が使用していた印章
上は「新平」、下は本名の「胤雄」(たねお)(佐賀城本丸歴史館蔵)

その時、江藤は叫んだ「裁判長、私は…!」

司法卿だった江藤は日本の裁判制度や組織的な警察機構を整備した。指名手配写真を導入したのも江藤だった。しかし、佐賀の役で追われる立場になった時、その警察と手配写真のために捕まることとなった。この裁判のなかでは江藤が整備したはずの正規の手続きが執られることはなく、最後は司法省時代の部下の判決で、既に禁止されていた斬首刑に処されるという、あまりに皮肉かつ悲劇的な最期を迎えることとなった。江藤には発言の権限すら与えられなかった。



▲佐賀の役で立てこもった佐賀城の門に残る弾痕の跡(早稲田大学図書館蔵)

島義勇足跡探訪コース【約2時間】(移動約95分+観光散策約25分)

モデルコース その生誕地から墓所まで、佐賀に残るその軌跡を辿る



①島義勇誕生地

佐賀大学の北側の細い路地沿いにある、当時島家の屋敷があったとされる場所。今では石碑が立つのみ。

所 佐賀市与賀町1342付近



②島義勇銅像

明治維新150年となる2018年、北海道開拓に貢献した島義勇を顕彰するため建てられた銅像。



③宝琳院

佐賀の役の際に島率いる憂国党が本堂とした寺。

所 佐賀市鬼丸町12-30
☎0952-84-3033
FAX 0952-84-4431
(水堂安福寺)



④殉国十三烈士の碑

江藤新平や島をはじめ、佐賀の役で殉死した13人を偲ぶ慰霊碑。県立博物館近くの歩道沿いにある。

所 佐賀市内城1-15-23付近
(佐賀県立美術館・博物館敷地内)



⑤万部島(佐賀の役記念碑)

鍋島家の安泰を祈って法華経一万部を読んだ小さい島の跡。敷地内の「佐賀の役記念碑」を恐ろしげな竜(竜脚)が背負う。

所 佐賀市水ヶ江1-8-5付近



⑥弘道館跡

通った藩校 義祭同盟の地 義祭同盟の地 龍造寺八幡宮 徒歩で約10分



⑧来迎寺

葉隠のふるさと、佐賀市金立町の小高い丘の上にある島家の菩提寺で、島も今はここで静かに眠っている。

所 佐賀市金立町大字金立1660
☎0952-98-1025

江藤新平足跡探訪コース【約2時間】(移動約75分+観光散策約40分)

モデルコース 江藤が苦悩しながらも、育ち、学んだ佐賀の暮らしを知る



①金福寺

脱藩した江藤が謹慎処分になっていた寺。天下国家の先を憂うも何もできず、閑々と過ごした江藤の日々を追体験。

所 佐賀市富士町大野916



②実相院

江藤率いる征韓党が佐賀の役の際に本堂とした寺。門前には佐賀の役で戦死者の慰霊碑があり、その悲哀が感じられる。

所 佐賀市大和町大字川上947
☎0952-62-2652



③江藤新平生誕地

長崎街道から少し入った所にある生家跡。今では場所を示す案内板のみ。近所の龍雲寺は小さい頃の遊び場だった。

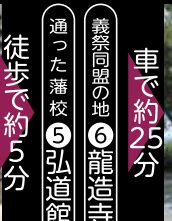
所 佐賀市八戸2-5-14付近



④本行寺

正門から入ると本堂手前の左側に江藤の墓がある。全国からの参拝客も多く、墓碑の副島種臣の字も見どころ。

所 佐賀市西田代1-4-6
☎0952-24-1813



⑥龍造寺八幡宮

通った藩校 義祭同盟の地 義祭同盟の地 龍造寺八幡宮 徒歩で約10分



⑦江藤新平乗船の地

江藤が佐賀の役からの脱出の際に、船に乗った乗船の地。政府から追われる身になった江藤の心情が偲ばれる。

所 佐賀市西与賀町大字高太郎2116付近

はみだし情報
佐賀の役で敗れ有明海を舟で南下する前夜、船着き場の村女たちが「途中でおなかをすいたらかわいそう」と江藤のために晩飯を準備し、朝日新聞社に江藤新平と明治維新「鈴木鶴子著 朝日新聞社に江藤新平と明治維新」の現地調査でわかった。江藤新平と明治維新「鈴木鶴子著 朝日新聞社に江藤新平と明治維新」の現地調査でわかった。江藤新平と明治維新「鈴木鶴子著 朝日新聞社に江藤新平と明治維新」の現地調査でわかった。

そえじまたねおみ

Soejima Taneomi



詳しくはコチラ!



副島種臣

世界が認めた正義の外務卿。



▲明治5年、マリア・ルス号事件を担当していた頃の副島の肖像

人をとりこにする人柄と学識

佐賀藩士枝吉南濠の二男として佐賀城下鬼丸町に生まれる。国学者である父と兄・枝吉神陽の影響により、早くから尊王攘夷思想に目覚める。7歳で藩校「弘道館」に入学。21歳で弘道館首班を務めるまでになる。

32歳の時、父南濠が亡くなると同藩の副島利忠の養子となる。兄の「義祭同盟」にも参加。1867年には大政奉還を進めるために大隈重信と脱藩するが、捕えられて謹慎処分を受ける。明治政府では参与・制度取調局判事となり、1869年に参議、1871年に外務卿を歴任。明治5年のマリア・ルス号事件で「正義の人」として一躍国内外で脚光を浴びるようになる。翌年、征韓論争に敗れて下野。自宅を売り払い、中国大陸を旅行し見識を深める。後に明治天皇の待講を務め、天皇からも寵愛された。

西南戦争で敗れた西郷隆盛が日本の未来を託す遺言状の宛先に副島を選んだことからわかるように、幕末維新时期～明治初期の多くの英傑から全幅の信頼を受ける学識と人柄であった。

書家「蒼海」としても多くの作品を残し、その独創的な書は今もお多くの人を魅了している。同じく佐賀出身の書聖、小林梧竹と共に近代書の源流と言われている。

人間としての法に従った正義の人

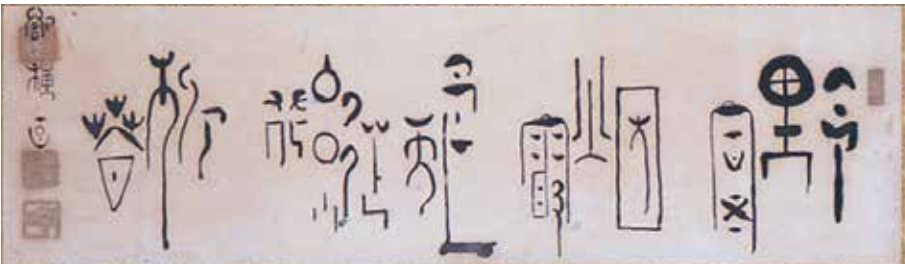
副島を語る上で外せないのがマリア・ルス号事件。明治5年(1872)に横浜港に停泊中のペルー船マリア・ルス号内で奴隸的扱いを受けていた清国人231人を解放した事件で、日本初の国際裁判だった。国際問題になることを恐れ、周りが干渉を決め込む中、外務卿の副島は断固として人道主義・日本の主権独立を訴え、勝利を勝ち取った。この事件を機に、副島は「正義の人」として国際的にも広く知られるようになった。



▲若き日の副島(左端)と大隈重信(右隣)と思われる写真(大隈重信記念館蔵)

書道デザイナー 独創的すぎる書

副島は「蒼海」の名で多くの書を残しており、その作品は書道界に大きな衝撃を与えた。作風は誰にも似ず、独創性にあふれ、文字というよりむしろ絵画のようにも見え。書道雑誌も蒼海の特集すれば良く売れ、展覧会の図録も売り切れてしまうほど。ちなみに「佐賀新聞」の題字も副島の作。



▲「春日其四句」 幾何学的パターンを連ねた書は絵画にも似る。読みは「野は烟霞(えんか)の色に富み、天は花柳の春を縦(ほし)いま」にす。

副島種臣足跡探訪コース【約2時間】(移動約75分+観光散策約45分)

モデルコース 佐賀市街に残る、副島の軌跡と書の作品を訪ね歩く



①副島種臣生誕地

佐賀城南堀沿いにあった枝吉家の屋敷跡。現在は社会福祉会館の駐車場で、その石碑の揮毫(きごう)も見事。

☎ 佐賀県佐賀市鬼丸町7-18



②佐賀県立博物館・佐賀県立美術館

「蒼海」などの名で残した多くの書の作品が収蔵され、常設展示も数点。展覧会なども企画されるので、まずは電話確認を。

☎ 佐賀市内1-15-23
開 9:30～18:00
(休 月曜(祝日の場合は翌日)、12/29～翌1/1
料) 無料(特別展は除く)
☎ 0952-24-3947



▲この松原川で副島らが顔を洗った

③弘道館跡

藩校弘道館跡。裏手には松原川が流れ、寄宿舎時代に多くの仲間と共に過ごした生活が想像されて楽しい。

☎ 佐賀市松原2-5-22(徴古館横)

義祭同盟の地 ④龍造寺八幡宮



⑤與賀神社(与賀神社)

副島の「神降百福」の木額が本殿の拝殿正面に揚げられ、副島の書を拝める穴場。

☎ 佐賀市与賀町2-50
☎ 0952-23-6091



⑥高伝寺

鍋島家、龍造寺両家の菩提寺です。明治の思想家枝吉神陽の遺徳碑と並んで実弟副島種臣の墓があり、二人の威徳を偲ぶことができる。

☎ 佐賀市本庄町大字本庄1112-1
開 9:00～20:00
料 大人300円 中学生200円
釈迦堂御開扉期間は400円
☎ 0952-23-6486

おおきたかとう

Ohki Takatou



詳しくはコチラ!



大木喬任

教育制度の基礎を作り上げた酒豪。



▲明治のはじめ頃の大木(長崎大学附属図書館蔵)

全ての国民に「学び」の場を与えん

佐賀藩士大木知喬の長男として佐賀城下赤松町に生まれる。11歳の時に、父知喬が亡くなり、母シカ子の手一つで育てられることになる。

15歳の頃から藩校「弘道館」の内寮生となり、19歳の時に枝吉神陽により「義祭同盟」が結成されると参加。江藤新平、大隈重信、副島種臣らと親交し、志士活動にも参加している。

明治元年、明治新政府に出仕すると、江藤と共に江戸遷都を建白。名前を東京と改め、民間出身としては最初の東京府知事となる。明治4年には初代文部卿となって学制・学校令・教育勅語などの教育体制の整備に尽力。誰でも学校に通えるようにし、全国に5万以上の小学校を置くなど、今日に続く学制の基礎を築いた。

明治6年には参議兼司法卿となり、後の神風連の乱や萩の乱の事後処理に当たった。また、法典編纂の確立にも尽力したことから、明治の六大教育家の一人に数えられている。



▲大木が書いた学制発布に関する書簡(早稲田大学図書館蔵)

父親譲りの大酒豪 どんな時でもまず酒だ

大木は父親譲りの相当な酒豪で水のように飲んでいた。15歳で藩校弘道館に入った後も隠れて飲んでいたらしい。そんな彼がほろ酔いで東京遷都案を岩倉具視に相談に行った所、「それは木戸孝允に相談しろ」と追いつ返された。翌朝、岩倉から話を聞いた木戸が大木を訪ねると、今度はやけ酒を飲んでふて寝していたらしい。

知識は拳より強し 寝ている暇などなし

周りの人間が口を揃えて言う程、大木は頭が良かった。それを培ったのが大量の読書。藩校「弘道館」の寮生として暮らしている時も、毎晩明け方まで中国の歴史書などを読み続け、その部屋は本で足の踏み場もなかったらしい。

【概略年表】 数え齢

1832	天保3年	1	3月23日、佐賀藩士大木知喬の長男として佐賀城下赤松町に誕生
1842	天保13年	11	父、知喬が亡くなり、以降、母シカ子の手で育てられる
1846	弘化3年	15	藩校弘道館に学ぶ／「資治通鑑」を精読
1850	嘉永3年	19	枝吉神陽らの主唱で義祭同盟が生まれ、参加する
1860	万延元年	29	藩校弘道館から選ばれて江戸遊学の途に上る
1863	文久3年	32	江藤新平と久留米に潜行し、長州藩士らに会う
1868	明治元年	37	江藤新平と共に東京遷都論を建白、東京府知事となる
1873	明治6年	42	参議に任じ文部卿を兼ねる／司法卿に任ぜられる
1876	明治9年	45	西国出張、萩、神風連、秋月の乱などの裁判処理にあたる
1881	明治14年	50	司法卿に任ぜられる
1884	明治17年	53	多年の功により華族に列し伯爵を授けられる
1889	明治22年	58	枢密院議長に任ぜられる
1891	明治24年	60	宮中顧問官、文部大臣に任ぜられる
1899	明治32年	68	6月26日死去、東京青山墓地に葬られる

失敗から学べ 食料危機を救った方法

大木が明治新政府のもと、東京府の二代目の知事になったのは1869年。ただでさえ幕府が倒れて東京は混乱の真っ最中なのに、凶作で米価が高騰して人心は不安定だった。彼が素早く米価安定を図り、中国から南京米を輸入し飢饉を救い、浮浪児らの教育所を作ったので都の人心は安定した。一方で荒れ果てた武家屋敷を利用して桑園や茶畑を作った「桑茶規則」は、病害などで目立った効果が出ず、大木も「大失敗だった」と述懐。しかし「失敗を人より早く悟り、過ちを改めてさらに都再建の意欲がわいた」との言葉には、しぶとい男・大木らしさがうかがえる。



▲「東京府京橋之図」 月岡芳年/画(早稲田大学図書館蔵) 大木が江藤新平と建白した東京遷都により、京都から東京に移る天皇の行列を描いた錦絵

大木喬任足跡探訪コース【約2時間半】(移動約95分+観光散策約55分)

モデルコース 大木が佐賀で歩んだ友情と勉学の道を訪ね歩く



①大木公園

大木の生家跡にある公園。大木と息子遠吉の巨大な記念碑が並び、その偉業の大きさを感じられる。

☎ 佐賀市水ヶ江3丁目4-12



②大隈重信旧宅(生家)

大隈らとは遊び仲間、よく遊びに行き、皆の溜まり場となっていた。GWなどに公開される大隈の勉強部屋は見所。

☎ 佐賀市水ヶ江2-11-11
開 大隈重信記念館の敷地内にあり、内部公開期間については、要問合せ
☎ 0952-23-2891

通った藩校 ③弘道館跡



④龍造寺八幡宮(楠神社)

大木らが参加した義祭同盟の楠神社(写真)と記念碑がある。大木はその創立メンバーの一人だった。

☎ 佐賀市白山1-3-2
☎ 0952-23-6049



⑤純粋社塾跡

勤王家石井龍右衛門が興した私塾で、大木の他大隈重信、副島種臣、江藤新平、中野方蔵らが学んでいた。

☎ 佐賀市伊勢町6-25



⑥西住寺

大木家が旧横田村を領地として賜り、その後菩提寺となった。歴代の墓碑をはじめ、喬任、その子遠吉までの墓がずらりと並ぶ。

☎ 神埼郡吉野ヶ里町大曲1539
開 墓地内安全の為、参拝は要問合せ
☎ 0952-52-1105

えだよししんよう

Edayoshi Shinyou

詳しくはコチラ!

枝吉神陽

日本の未来を説くカリスマ学者。

義祭の志士たちに慕われた高潔な師

藩校・弘道館の教諭であった枝吉南濠の長男として佐賀城下鬼丸町に生まれる。副島種臣は実弟。幼児期より神童と賞され、23歳の時には江戸幕府直轄の昌平坂学問所に学び、同舎の舎長を務める。帰郷した後は弘道館で教鞭を執る傍ら、父南濠の唱えた「日本一君論」を受け継ぎ勤王運動を行う。

1850年、楠公父子を祀る「義祭同盟」を結成。尊王思想を説き、江藤新平や大隈重信、副島種臣、島義勇、大木喬任など、後に明治政府の重鎮となる青年たちの眼を開かせた。

1862年、コレラに感染した妻をいたわり看病するうちに自身も感染し、先立つ妻を追うように2日後、世を去った。彼の人格や思想は義祭の青年たちの心に宿り、明治の国作りの随所随所で影響を及ぼすこととなる。



▲龍造寺八幡宮に伝わる義祭同盟の連名帳(龍造寺八幡宮蔵)

九州に枝吉先生あり 松陰が息をのむ「奇男児」

枝吉の門下から明治政府で活躍する多くの偉人を輩出したことから「佐賀の吉田松陰」とも呼ばれているが、松陰は実際に佐賀に来て枝吉と会ったことがある。その印象は「奇男子」。後に九州に向かうという友人には、必ず枝吉を訪ねるようにと勧めている。また、水戸の藤田東湖と共に「東西の二傑」とも称されていた。



▲吉田松陰(国立国会図書館蔵)

【概略年表】		数え齢	
1822	文政5年	1	5月24日、佐賀藩士枝吉南濠の長男として誕生
1844	弘化元年	23	江戸遊学を命じられ、昌平坂学問所で学ぶ
1846	弘化3年	25	諸国遊行の旅に出て、各地の文化に触れる 佐賀に戻り結婚 佐賀を訪ねてきた吉田松陰と会い、松陰に感銘を与える
1847	弘化4年	26	江戸の昌平坂学問所に復帰
1848	嘉永元年	27	昌平坂学問所の舎長に任じられる
1849	嘉永2年	28	佐賀に戻り、弘道館で教鞭を執る
1850	嘉永3年	29	「義祭同盟」設立
1862	文久2年	41	コレラに感染した妻を看病し自らも感染、8月14日死去



▲「義祭同盟」の象徴とも言える楠木正成と正行父子像。
楠神社の例祭(5月25日前後の日曜に開催)の時に開扉される

その容姿は体育会系？ 富士山だって下駄履きで

枝吉は残念ながら後ろ姿の肖像画が残っていないが、伝えられるところによると、身体は大きく、足は長く、顔は角張っていて口は大きく、まなじりは長く、目は輝き、声を出すとき障子が震えたとか。一見、書生とは思えない体育会系の体型。弟の副島種臣の話によれば、20里(約80km)は毎日歩いてよいと言う程の健脚家で、江戸の昌平坂学問所(学校)にいた時は、下駄履きで富士登山をしたなど信じられない話もある。

討つべきは異国が幕府が 分裂した義祭同盟

枝吉が結成した勤王組織「義祭同盟」。しかし、黒船来航で世間の情勢が一変すると、次第に勤王運動が藩の不利に繋がると考える保守派と、倒幕すら視野に入れた過激な改革派に分裂していった。そんな改革派を率いていたのが創設者の枝吉自身と弟・副島種臣の兄弟だった。結局その活動は藩政を動かすには至らなかったが、彼らの情熱は後の維新での精神的な礎となった。

さがらちあん

Sagara Chian

詳しくはコチラ!

相良知安

ドイツ医学導入の功績者。

立身より医学発展にかけた人生

藩医相良柳庵の三男として佐賀城下八戸村に生まれる。相良家は代々佐賀藩医の家系で、彼も医者を目指す事になる。

16歳で藩校弘道館に入学、19歳で洋学を学ぶ蘭学寮に進み、21歳で創設されたばかりの医学学校に入学。また、千葉の「佐倉順天堂塾」で医学を学び、長崎の「長崎養生所」ではオランダ医師のボードインに師事した。

33歳の頃に藩主鍋島直正の侍医として上京。明治になると、新生日本の医学学校創設を任される。当時の明治政府内ではイギリス医学を日本の規範に決めていたが、長崎にて収集した異人たちの情報を基に、「ドイツ医学こそ世界最高水準」と明治の元勳たちの前でもひるまず堂々と主張。政府の方針を最終局面で覆した。

明治5年には第一大学区医学学校(現東京大学医学部)の初代校長となり、さらに「医制略則」を起案。今日まで続く医学制度の基礎となっている。

しかしドイツ医学導入の件で一部藩閥の恨みを買ったせいか、後は重要なポストに就くこともなく、50歳の時には全ての官職を退く。晩年は易者(占い師)として、長屋で不遇の時代を過ごし、71歳でひっそりとその生涯を閉じることとなる。

【概略年表】		数え齢	
1836	天保7年	1	2月16日、佐賀城下八戸村に三男として誕生
1851	嘉永4年	16	藩校弘道館に入学する
1854	安政元年	19	蘭学寮入寮
1861	文久元年	26	江戸及び下総(千葉県)の佐倉「順天堂塾」で蘭学を学ぶ
1863	文久3年	28	長崎にてボードインに学ぶ
1865	慶応元年	30	長崎養生所を精得館と改め、館長となる／致遠館に入学
1867	慶応3年	32	好生館教導方差次となる
1868	慶応4年	33	上京
1869	明治2年	34	新政府の医学学校取調御用掛仰付けられ、ドイツ医学導入決定
1872	明治5年	37	東校を第一大学区医学学校と改め、校長となる
1873	明治6年	38	文部省医務局長兼築造局長となる
1874	明治7年	39	相良の草稿を基にした「医制76ヶ条」を長与専斉が公布
1875	明治8年	40	本官を免ぜられる
1885	明治18年	50	7月、文部省御用掛仰付けられる／12月、非職仰付けられる
1900	明治33年	65	勲五等に叙せられ、雙光旭日章を授けられる
1906	明治39年	71	6月10日、死去

グズグズしてられない 世界まであと何年？

28歳の相良が長崎で医学を学んでいた時のこと。蘭医ボードインが「日本の医学は何年経てば、欧州諸国に追いつけるか」と生徒たちに質問。他の生徒たちが「100年かかる」「いや80年」などと答える中、相良だけは「14～5年後には追いつくでしょう。いや追いつかねばなりません」と熱弁。相良の医学にかける情熱はこの頃既に燃えだぎっていた。

佐賀と東京、二人の妻 その二人が出会った時

相良は故郷佐賀に妻の多美と子供を残し上京し、以後37年間の東京生活。東京ではお豊と言う女性と暮らしていた。いわゆる「権妻(ごんさい)」である。後年、相良が亡くなると、正妻の多美は上京し、権妻のお豊と対面。正に修羅場…とはならず、お豊は天皇陛下より相良へ授けられたお金と遺骨を多美へ手渡し、多美は苦労しながら相良を支えたお豊の手を握り、いつまでも二人で涙したという。

人は見かけによらない 貧乏長屋のあの人が?!

「医者」を捨て、易者として貧乏生活を続けていた相良に届いた吉報。近代医学制度創設に貢献した相良へ、勲五等双光旭日章が授与されたのだ。しかし貧乏で礼服も無い相良は、親友の石黒忠憲博士に代理を頼むことに。また亡くなった際には天皇陛下からの祭料が使者によって届けられた。同じ貧乏長屋の住人たちも、まさかそんなに偉い先生だったとは、さぞ驚いたことだろう。

幼なじみで似た者同士 江藤と相良の数奇な運命

相良と江藤新平は同じ八戸村の出身で子供の頃、共に遊んだ竹馬の友だった。この二人は、一度決めたら突き進む突破力や相手を論破する時の容赦のなさなどが似ている。それぞれ医学と司法の面で国の基盤を作り上げる偉大な功績をあげるが、わずか数年で離職せざるを得なかったことも共通している。

相良が進んだ ドイツ医学とは？

相良がドイツ医学を推奨した理由として、当時日本に多かったオランダ医学書は大半がドイツ医学書の翻訳であったこと、当時ドイツ医学では基礎医学で破傷風菌、結核菌、淋菌など、世界的発見が相次ぎ発展していたこと、政府顧問だったフルベッキの勧めがあったこと、また日本とドイツは君主政体で新興国として国情・民族性に類似性があったことなどが挙げられる。我が国への導入以来、ドイツ医学を学んだ医学者の北里柴三郎博士、志賀潔博士、野口英世博士らが、細菌学や免疫学の基礎医学で世界的発見を成し遂げ、日本医学はわずか30年足らずで世界レベルに到達し発展した。ちなみに、カルテ、クランケ、オペ、メスなどの用語もドイツ語由来。

▶【注意】(相939)独医学導入に関する相良自筆草稿(佐賀県立図書館蔵)
※複製資料



枝吉神陽足跡探訪コース【約2時間】(移動約70分+観光散策約50分)

モデルコース 義祭同盟の八幡神社から墓所まで、若者の育成に捧げた人生を辿る



①龍造寺八幡宮

境内にある楠神社(写真)は枝吉が主宰した義祭同盟の神殿であり、ここから多くの俊英たちを輩出していった。

住所 佐賀市白山1-3-2
電話 ☎0952-23-6049



②弘道館跡

枝吉が教鞭を取り、佐賀の多くの偉人を輩出した藩校、弘道館の跡地。石碑は微古館の西側に建ち、当時を偲ばせる。

住所 佐賀市松原2-5-22(微古館横)
電話 ☎0952-23-4200



③枝吉神陽誕生地

佐賀城の南堀沿い、かつて枝吉家の屋敷があった所で、現在は社会福祉会館の駐車場。弟の副島種臣の誕生地も同地。

住所 佐賀県佐賀市鬼丸町7-18



④梅林寺

義祭同盟結成まで、楠公父子の木像が安置されていた寺。1850年の結成後、数年間はここで楠公を祀る義祭が執り行なわれた。

住所 佐賀市本庄町大字本庄377
電話 ☎0952-24-9005



⑤高伝寺

鍋島家、龍造寺両家の菩提寺です。明治の思想家枝吉神陽の遺徳碑と並んで実弟副島種臣の墓があり、二人の威徳を偲ぶことができる。

住所 佐賀市本庄町大字本庄1112-1
開 9:00～20:00
料 大人300円 中学生200円
釈迦堂御開扉期間は400円
電話 ☎0952-23-6486

相良知安足跡探訪コース【約2時間】(移動約75分+観光散策約45分)

モデルコース 相良が半生を過ごし、戻る事のなかった佐賀での軌跡をたどる



①相良知安生誕地

長崎街道沿いで、現在はアパートの駐車場。小さい頃、江藤と一緒に遊んだ龍雲寺も近く、幼い二人はどんな姿だったのだろう。

住所 佐賀市八戸1-4-19



②弘道館跡

相良と江藤が共に学んだ佐賀藩の藩校。明治政府で活躍した多くの偉人を輩出し、近代日本成立に大きな役割を果たした。

住所 佐賀市松原2-5-22(微古館横)
電話 ☎0952-23-4200



③佐賀県立図書館

相良による「医制略則」等、関連資料や文書などを多数保存。事前連絡すれば閲覧も可能で、本物の持つ息吹を感じられる。

住所 佐賀市内2-1-41
開 9:00～20:00
休 毎月最終水曜日、特別整理期間、年末年始(12/30～1/3)
電話 ☎0952-24-2900



④相良が学んだ 藩学校「好生館」跡

現在は「佐賀メテカルセンタービル」相良は安政3(1856)年に藩「医学寮」に入学。「医学寮」は安政5(1858)年に水ヶ江へ移転し、藩主鍋島直正公は「好生館」と命名する。慶応4(1868)年、長崎で蘭医学を学んで帰郷した相良は、好生館「教導方差次」(准教授)に就任し西洋医学を教授した。
住所 佐賀市水ヶ江1-12-10



⑤城雲院

佐賀銀行本店南の小路を東に入るとある。境内にひっそりと建つ相良の墓に手を合わせ、その熱い生涯に思いを馳せよう。

住所 佐賀市唐人2-7-5
電話 ☎0952-26-7218



佐賀に伝わる古代ミステリー

今から約2200年前、史上初の中国統一を果たし、あらゆる権力と富を手にした秦の始皇帝。絶対の権力者の彼でさえまななかつたのが、「老い」と「死」だった。徐福はその始皇帝に仕える方士で、呪術、祈祷、医薬、占星術、天文学に通じた学者。実は始皇帝に滅ぼされた斉の国の人で、その頭脳を見込まれて仕えていた。

司馬遷が書いた中国の歴史書「史記」によると、徐福は始皇帝に「東方の三神山に不老不死の霊薬がある」と進言し、始皇帝の命を受け、3,000人の童男童女と多くの技術者を従え、五穀の種を持って、東方に船出し、「平原広沢(広い平野と湿地)」を得て、王となり戻らなかったと記されている。

この徐福の渡来伝説は日本各地に伝えられているが、特に佐賀には数多くの伝承が残されており、昔から「徐福さん」と呼ばれ親しまれている。

徐福が追い求めたフロフキは不老不死の薬?

仙薬を探す徐福が金立(きんりゅう)山で出会ったのは謎の仙人。徐福が仙薬の場所を訪ねると、仙人はゆがいている釜の中を見せ、霧のように消えてしまった。その釜の中にあったものこそ、徐福が求めていた仙薬で、「フロフキ」という薬草だった。フロフキは、今も金立山に自生しており、土地の人々は煎じて飲めば腹痛や頭痛に効果があると言う。



▲自生するフロフキ。徐福長寿館で実物を見ることができる。同じ科のサイシンは実際に漢方薬として利用されている



▲「金立神社画図縁起」(金立神社蔵 佐賀県立博物館寄託) 画面は絹布3枚縫いで、上段は金立神社上宮、中段は金立神社下宮、下段は徐福上陸の場となっている。かつて天皇や鍋島家も参拝したという由緒ある金立神社の姿を伝える貴重な資料

チャンスは一生に二度 50年に一度の幻の行例

徐福を祀る金立神社には、何と50年に1度開催される例大祭がある。また、神輿を担いで、徐福が上陸地から金立山まで辿った道を逆に下る「お下り神事」も開催される。次の開催は2030年。一生に一度か二度の貴重な機会だ。



▲前回の昭和55年4月に行われた例大祭の様子(「佐賀に息づく徐福」所載)

【概略年表】

数え暦	西暦	出来事
BC.221		58 齊の国が滅亡し、秦の始皇帝が即位
BC.219		60 不老不死の仙薬を求め、蓬萊・方丈・瀛洲の三神山に向けて旅立つも、見つからず
BC.212	弥生時代	67 始皇帝に「蓬萊に行けば仙薬が手に入るが大鯢に邪魔されたどり着けない」と報告
BC.210		69 童男童女3,000人と技術者、五穀や数々の道具を船に載せて大船団で再び出航 始皇帝崩御

※徐福の生没年などは諸説あり

《徐福ゆかりの温泉に浸かろう!》

⑥古湯温泉

金立山の西にある古湯温泉は湯の神のお告げに導かれて、徐福が見つけたと伝えられている。泉質はアルカリ性単純温泉で美人の湯「ぬる湯」として評判が高い。徐福巡りの旅の宿に最適。

☎ 富士町観光案内所 ☎0952-51-8126



悲劇のもととは聞き間違い お辰との悲しい恋の物語



お辰は金立の地で徐福と恋仲になった娘。徐福が一時この地を離れる時、「5年後に戻る」との伝言があやまって「50年後」と伝わってしまったため、お辰は悲しみのあまり亡くなってしまった。これは中国、日本を含めて唯一伝わる徐福の悲しい恋の物語でもある。



煎茶で真理をわかち合った風流人

煎茶の祖、高遊外売茶翁は延宝3年、佐賀蓮池支藩の藩医の三男として誕生。11歳で龍津寺に出家し僧名は月海。22歳で修行不足を恥じ江戸、仙台等各地へ出かけた。煎茶は長崎の中国僧から習ったとの説もある。また、隠元禅師が京都宇治に開いた、黄檗山(おうばくさん)萬福寺でも修業、中国伝来の文化に触れ、視野を広げた。晩年、龍津寺を弟弟子に託し再上洛。洛中に「通仙亭」という庵を構え、茶を売りながら禅や人の生き方を説いた。その姿に人々は親しみを込めて「売茶翁」と呼んだ。

通仙亭には文人墨客が集まり「売茶翁」に一服接待されなければ一流の文人とは言えないといわれ、伊藤若冲や池大雅などが集まり、若冲は売茶翁の肖像画も多数書き残している。漢文にも堪能で、漢詩や和歌を残し、書家としても超一級の人物であった。



▲85歳の時の売茶翁直筆の書。「三省」とは中国の曾子(そうし)の言葉で「毎日何度も自分の行動を反省する」の意(NPO法人 高遊外売茶翁顕彰会蔵)

本名?あだ名? 売茶翁の名前

売茶翁というのは実は名前ではなく、お茶を売る翁(おきな)という意味のあだ名のようなもの。本名ではないが、本人も時にはこの名前を記す事もあった。本名は柴山元昭、幼名は菊泉。僧侶としての名前は月海で、晩年は高遊外と名乗っていた。ちなみに高が姓で、遊外が名前。

難解だけど面白い 売茶翁のユーモア

「茶銭は黄金百鎰(いつ)より半文銭までくれしだい。ただにて飲むも勝手なり。ただよりほかはまけ申さず」(訳:お茶の代金は小判二千両から半文までいくらでも結構。ただで飲んでも結構。ただより安くはできません)これは売茶翁が煎茶を売る時に掲げた言葉。ユーモアあふれる言い回しに、ぜひ本人に会ってみたくなる。



肥前通仙亭内にもこの言葉が掲げられている

自然に人が集う人柄 文化人が常に集う場所に

売茶翁のその自由な精神に魅かれるのか、周りには多くの人が集まった。江戸時代の天才画家、伊藤若冲もその一人。人物画を描かなかつた若冲がただ一人描いたのが売茶翁であり、売茶翁からもらった「丹青活手の妙、神に通ず(彩色の素晴らしは正に神業である)」の一行書を印にし、絵に捺している程心酔していた。



▲「売茶翁偈語」(ばいさおうげ) 売茶翁亡き後、大典顕常など当時の文化人が、その口述などをまとめた本。巻頭の肖像は伊藤若冲作(NPO法人 高遊外売茶翁顕彰会蔵)

【概略年表】

数え暦	西暦	出来事
1675	延宝3年	1 5月16日、柴山奎之進常名の三男として誕生。幼名菊泉
1686	貞享3年	12 佐賀市の龍津寺に出家、僧名月海
1687	貞享4年	13 黄檗山萬福寺第4代独湛禅師に面会を許される
1688	元禄元年	14 龍津寺に帰り学問・修行に励む
1696	元禄9年	22 体調を崩し、江戸・京都を経て仙台的萬寿寺月耕禅師のもとで修行
1707	宝永4年	33 長崎で煎茶の知識を吸収
1731	享保16年	57 龍津寺を法弟大潮にゆずり、志を果たすため上洛
1735	享保20年	61 東山に通仙亭を構え、禅を説きながら売茶の業を始める
1742	寛保2年	68 高遊外に改名
1763	宝暦13年	89 7月16日、京都で寂入

「梅山種茶譜略」▶ (ばいざんしゅちゃふりやく) 売茶翁が著したお茶の歴史や作法などをまとめた本 (NPO法人 高遊外売茶翁顕彰会蔵)



不憫な思いはさせない 茶道具への深い愛情

死期を感じた売茶翁は売茶業を廃し、自分の茶道具も燃やしてしまう。これは自分の死後、俗世に渡り、売買されるようなことになれば、茶道具自身が悲しむとの思いであり、売茶翁の道具に対する愛情の表れだった。



▲佐賀市の観光文化施設、肥前通仙亭では、売茶翁ゆかりの資料や茶道具を展示

徐福足跡探訪コース【約2時間】(移動約65分+観光散策約55分)

モデルコース 上陸の地から、仙薬を見つけたという金立山までの道程をたどる



車で約5分

①徐福上陸地(淨盆)

徐福上陸の伝説の地で、現在は神社として拝殿や掲示板等が整備されている。ここから徐福巡りの旅をスタート!

☎ 佐賀市諸富町大字寺井津15隣



②新北(にきた)神社

境内のビャクシンは徐福が上陸の記念に、中国から持ってきた種を植えたものと伝えられ、貴緑ある姿を拝むことができる。

☎ 佐賀市諸富町大字為重1073



③お辰観音

徐福との悲恋の末に亡くなったお辰を偲ぶ観音像。お辰が「自分のようにはさせない」と、縁を結んでくれる。

☎ 佐賀市金立町千布3055-3付近



④徐福長寿館

日本唯一の徐福の公的資料館。佐賀の徐福伝説発信の中心施設で、徐福や薬草に関する様々な情報はここで得られる。

☎ 佐賀市金立町大字金立1197-166
開 9:00~17:00
休 月曜 祝日の翌日 年末年始
料 大人300円 小中学生150円
☎ 0952-98-0696



⑤金立神社(上宮)

金立山頂上にある、徐福を祀る神社。天皇も参拝した由緒ある神社で、その徳を感じつつ、徐福が開拓した佐賀平野を見渡そう。

☎ 佐賀市金立町大字金立3415
☎ 金立神社下宮
☎0952-98-1409

売茶翁足跡探訪コース【約3時間】(移動約65分+観光散策約115分)

モデルコース 日本茶栽培の発祥地から売茶翁ゆかりの地を巡り、お茶を親しみ、禅を体験する



①霊仙寺跡の茶園

日本茶樹栽培発祥の地。1191年栄西禅師が中国から持ち帰ったお茶を当時九州一の山岳仏教の聖地だった育振山腹で栽培した。

☎ 神埼郡吉野ヶ里町松隈九瀬谷1923
☎ 吉野ヶ里町東育振庁舎
☎0952-37-0350



②龍津寺

売茶翁が幼い時出家したお寺。現在はお堂が焼失し小さな庵を残すのみ。売茶翁の顕彰碑や柴山家のお墓が建っている。

☎ 佐賀市巨勢町東西137-5
☎ 佛心寺
☎0952-24-8528



③肥前通仙亭

売茶翁に関する資料の展示や情報発信の拠点。直筆の書など、ゆかりの品も充実。もちろん美味しい煎茶も頂ける。

☎ 佐賀市松原4-6-18
開 9:00~17:00
喫茶(10:00~16:00)
☎ 月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始
☎ 見学無料
☎ 0952-65-2152



④佛心寺

売茶翁ゆかりの黄檗宗のお寺で、住職は売茶翁が出家した龍津寺の兼務住職を務めている。訪問の際はお問い合わせを。

☎ 佐賀市大財4-3-14
☎ 佛心寺
☎0952-24-8528



⑤大興寺

黄檗宗のお寺。
☎ 佐賀市神野東3-10-3

はみだし情報

佐賀県内には成富兵庫茂安の偉業をたたえ、佐賀市兵庫町や三養基郡北茂安町現みやき町など、その名前が地名になつて残っている

Nariomi Shigeyasu

なりどみひょうごしげやす

成富兵庫茂安

今も遺構が残る治水の神

詳しくはこちら!

▲「錆色塗紺糸威皿二枚胴具足」
天草の戦いにおいて加藤清正に加勢したことから、清正より授けられた甲冑（鍋島報効会蔵）

武将から治水家へ鮮やかな転身

肥前国を治めていた龍造寺氏の家臣である成富信種の次男として生まれる。11歳で主君の龍造寺隆信の小姓として仕えるようになり、17歳で初陣。以降、幾多の戦いで武功を上げ、豊臣秀吉の朝鮮出兵では鍋島直茂から全権を任されて活躍。また、その知略ぶりから多くの逸話を残し、武士道書「葉隠」にも多くのエピソードが残されている。

戦国の世が終わると藩内の禄高を上げるため、幾多の水利施設の整備を行う。その実施前には実際に模型を作って緻密な実験をしたと言われる。工事には地元の農民を作業に当たらせたが、農繁期には作業をさせないなど、その気遣いぶりで領民から親しまれた。

茂安自身は1634年、75歳でその生涯を閉じるが、彼の水利システムは今でも現役で、佐賀平野の稲田を潤し続けている。



▲嘉瀬川から佐賀城下へ水を取込む巨大取水施設「石井樋」
その完成により、洪水被害は減り、佐賀城下の水不足は解消された
(画像提供:筑後川河川事務所)



▲「疏導要書」(そどうようしょ)
佐賀藩の南部長恒によって1834年に書かれたもので、藩内河川の水利状況や成富兵庫茂安の事績が細かく記されている。佐賀県立図書館で複写本の閲覧可能。
(鍋島報効会蔵 佐賀県立図書館寄託)

初陣はフライング
父が救った命

若い頃の茂安は血気盛ん。11歳の時に若すぎると初陣の許可が出なかったため、独断で戦場で物見を行い、それが龍造寺隆信の目に留まり、以来小姓として仕えるようになる。さらに18歳の時に博打にハマり父親の初倉まで失ってしまふ。いっそ殺してしまえという親族に対し、父信種は一年だけ待ってくれと茂安を徹底的に指導。その心に打たれた茂安は見事更生を果たすのだった。

戦国一の策士
普請場の陣取り合戦

大阪での普請(工事)を命じられた時のこと。作業するため必要な場所は既に他藩が押さえていた。そこで、夜中にその脇の川の中に杭を打ち込み、翌日に「3日前に杭を打って場所を確保しておいたが、水が増えて見えなくなってるようだ」とその杭を引き抜き、その場所を横取りしてしまったんだとか。「茂安は戦国一の曲者(くせもの)」との異名さえついた。

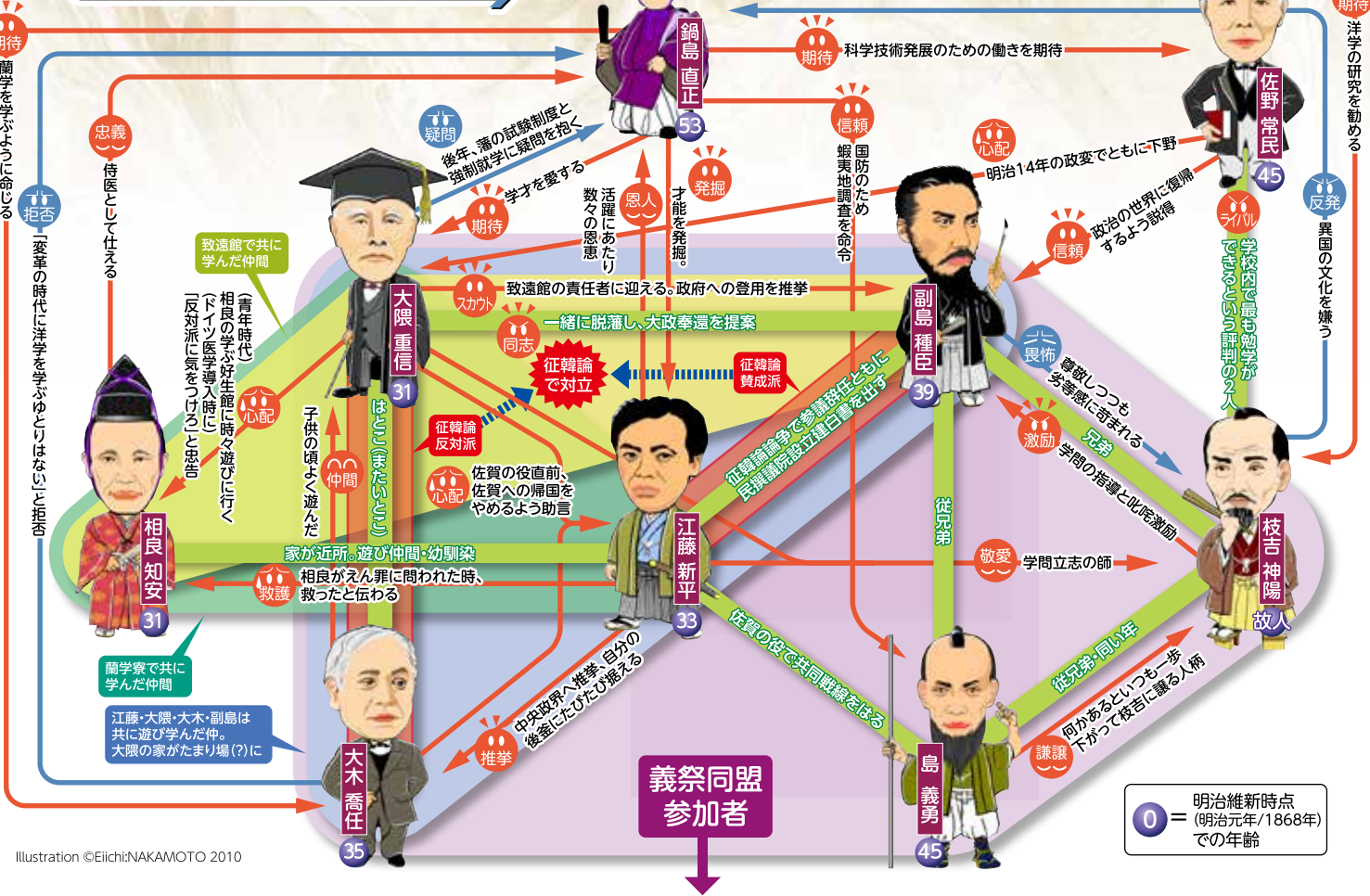
「眠るならそばに」。養子に
来た藩主の息子に慕われる

茂安は藩主・鍋島勝茂から、その四男の直弘を養子として預けられた。これは成富家の後継ぎとしてではなく、武士として立派に育てて欲しいという思いから。藩主の子供を預けられることから、いかに茂安が信頼された人物だったかが分かる。直弘は後に鍋島家に復籍し白石鍋島家を興すが、その墓は直弘の遺言により、茂安と同じ本行寺に建てられている。父子だった期間は短いものの、茂安と直弘の深い情愛が感じられる。

▶鍋島勝茂像
(鍋島報効会蔵)
佐賀藩の初代藩主。龍造寺隆信の後、家政、高房の死去を受け、父の鍋島直茂が藩祖、勝茂が藩主となって、佐賀の地を治めた



幕末・維新期の
佐賀の賢人たち
人物相関図



義祭同盟とは…



義祭同盟とは弘道館の教諭であり、国学者であった枝吉神陽が1850年(嘉永3年)に設立した勤王結社。表向きは楠公父子像を祀る崇敬の集いでしたが、実際は尊王論を広げ天下国家の行く末を語りあう塾の趣を帯びていました。毎年旧暦5月25日には親や兄弟姉妹にも秘密にし、佐賀藩の若き志士たちが集い、議論を深めた。

初期メンバーには、副島種臣、島義勇、大木喬任らの名前

があり、後に江藤新平や大隈重信らも参加しています。他にも佐賀藩の老家であった鍋島安房(あわ)や、後に岩倉使節団に同行する久米邦武らの名前も残っており、その参加者には幕末維新期の中央政府で活躍した人物も数多くいました。後に二度の総理大臣を務めた大隈重信は「予がこれに加盟したのが、世に出て志を立てるきっかけになったと言ってもよい」と回顧しています。

▲楠神社の隣には義祭同盟の碑が建立。現代でも毎年5月には楠正成・正行親子を讃える「楠公祭」が行われています。

幕末・維新の賢人 グルメ&グッズ

賢人にまつわるエピソード料理や
デザートがぎゅぎゅっと詰まった

義祭弁当



義祭同盟参加者に鍋島直正、佐野常民を加えた「8賢人」にゆかりのある惣菜を集めて幕の内弁当に。人気商品なので、前日の予約が必要。

価格:1,200円(お茶付)
製造・販売・お問い合わせ:林橋亭
電話:0952-23-2788
販売所:林橋亭(佐賀市中の小路3-1)

専攻学部・お仕事ごとにゲットしてもよし!
受験や勉強のお守り代わりに

佐賀賢人バッジ



一枚一枚が「学部別・専攻別」の受験や勉強のお守り代わりに!
あなたの目標に合わせて買うもよし、12人一気に揃えるもよし。
価格:1個150円(税込)
販売所:佐賀城本丸歴史館、大隈重信記念館

個性派揃いの8人がお待ちしています
幕末・維新 佐賀の八賢人

おもてなし隊



佐賀の8人の賢人の業績と佐賀の歴史と誇りを笑いと涙で伝える演劇ユニット。2012年9月より始めて観客数101,000人を突破満足率96.7%と大好評です。
お問い合わせ:電話 080-6446-7186
メール:sagahachikenjin@gmail.com(担当:青柳達也)



佐賀の賢人の足跡を巡る。

コースマップ

相良知安

江藤新平

鍋島直正

大隈重信

大木喬任

枝吉神陽

佐野常民

売茶翁

徐福

成富兵庫茂安

島義勇



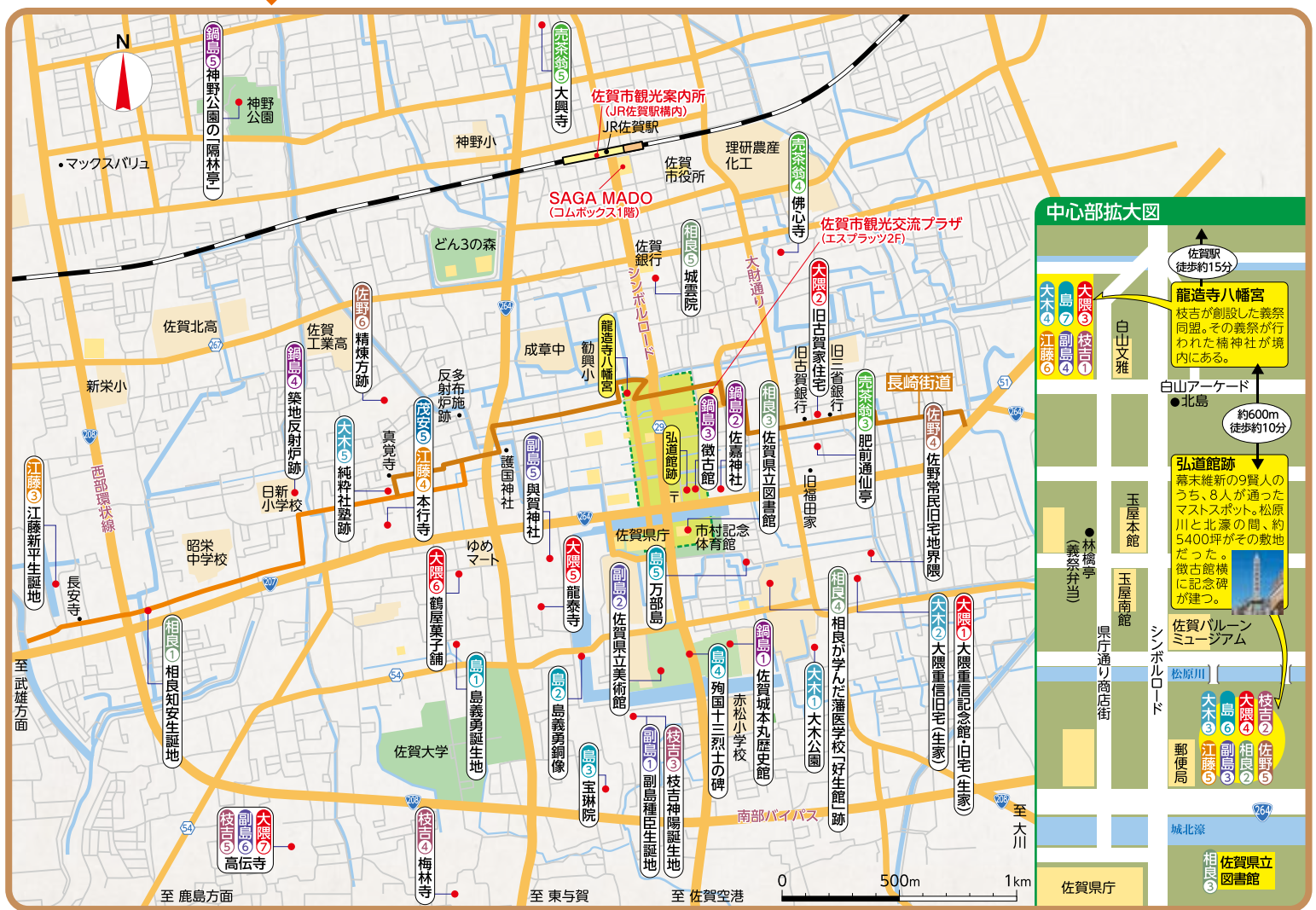
【発行・お問い合わせ先】
一般社団法人
佐賀市観光協会
www.sagabai.com

■佐賀市観光交流プラザ
(エスプラッツ2F)
営業：10:00～18:30
(火曜は19:00、日曜は16:00まで)
定休：土・祝日・年末年始
TEL: 0952-20-2200
FAX: 0952-28-5656

■SAGA MADO観光案内窓口
(コムボックス佐賀駅前1階)
営業：9:00～18:00
定休：年末年始(12/31～1/3)
TEL/FAX: 0952-37-3654

■佐賀市観光案内所
(JR佐賀駅構内)
営業：8:30～18:00
(土日祝17:00まで)
定休：年末年始(12/31～1/3)

※本パンフレットは観光の見地から作成したものです。禁 無断複写(コピー)、転載 [2025年1月改訂]



中心部拡大図

佐賀駅
徒歩約15分

龍造寺八幡宮

枝吉が創設した義祭同盟。その義祭が行われた楠神社が境内にある。

白山アーケード
●北島

約600m
徒歩約10分

弘道館跡

幕末維新の9賢人のうち、8人が通ったマストスポット。松原川と北瀬の間、約5400坪がその敷地だった。微古館構に記念碑が建つ。

佐賀パルーンミュージアム

松原川

●林檎亭
(義祭弁当)

県庁通り商店街

シンボルロード

城北壕

佐賀県立図書館

大隈1 大隈重信記念館(旧宅生家)

大隈2 大隈重信旧宅生家

大隈3 佐賀県立図書館

大隈4 相良が学んだ藩医学校「好生館」跡

大隈5 大木公園

大隈6 佐賀城本丸歴史館

大隈7 赤松小学校

大隈8 殉国十三烈士の碑

大隈9 枝吉神陽誕生地

大隈10 副島種臣誕生地

大隈11 島義勇誕生地

大隈12 佐賀県立美術館

大隈13 佐賀県立美術館

大隈14 佐賀県立美術館

大隈15 佐賀県立美術館

大隈16 佐賀県立美術館

大隈17 佐賀県立美術館

大隈18 佐賀県立美術館

大隈19 佐賀県立美術館

大隈20 佐賀県立美術館

大隈21 佐賀県立美術館

大隈22 佐賀県立美術館

大隈23 佐賀県立美術館

大隈24 佐賀県立美術館

大隈25 佐賀県立美術館

大隈26 佐賀県立美術館

大隈27 佐賀県立美術館

大隈28 佐賀県立美術館

大隈29 佐賀県立美術館

大隈30 佐賀県立美術館